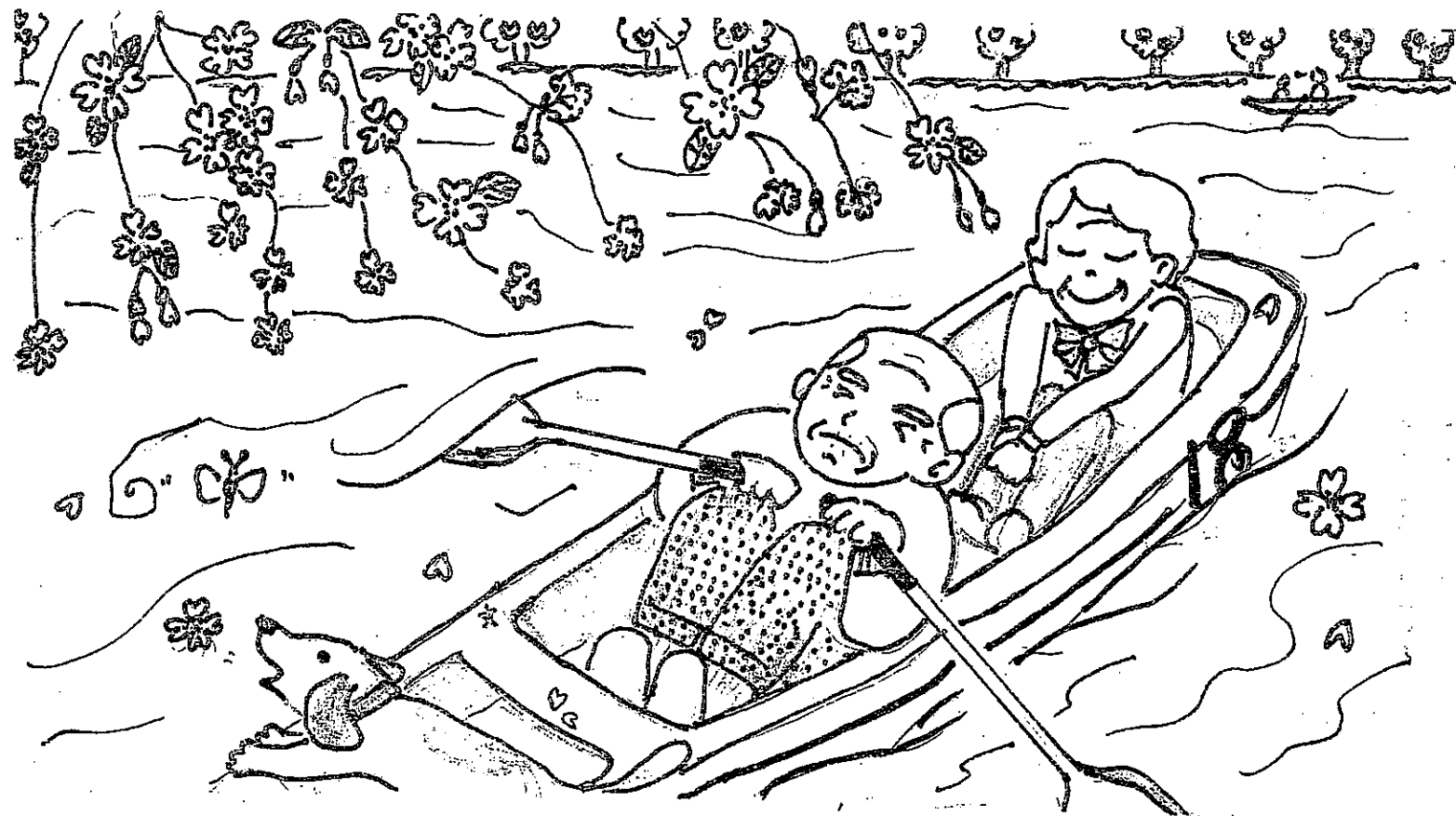


あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

第21号

発行：那須塩原市介護
サービス相談機関
「介護相談室」
発行日：2006年
3月25日



お手玉歌

部屋の隅に置いてあったお手玉歌いながら夢中で遊んでいます。子供の頃に覚えた歌は年を重ねても忘れないものです。デイサービスに来ていた利用者の皆様にお聞きしました。

- 一番はじめは宇都宮
- 二また日光中禅寺
- 三また佐倉の宗五郎
- 四また信濃の善光寺
- 五つは出雲の大社
- 六つ村々鎮守様
- 七つ成田の不動様
- 八つ八幡の八幡宮
- 九つ高野の金剛山
- 十で東京博覧会

お手玉歌は全国で歌われています。各地で多少歌詞は変わるものの女の子の遊びとして根強い人気で現在に歌い継がれています。



あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊誌です。

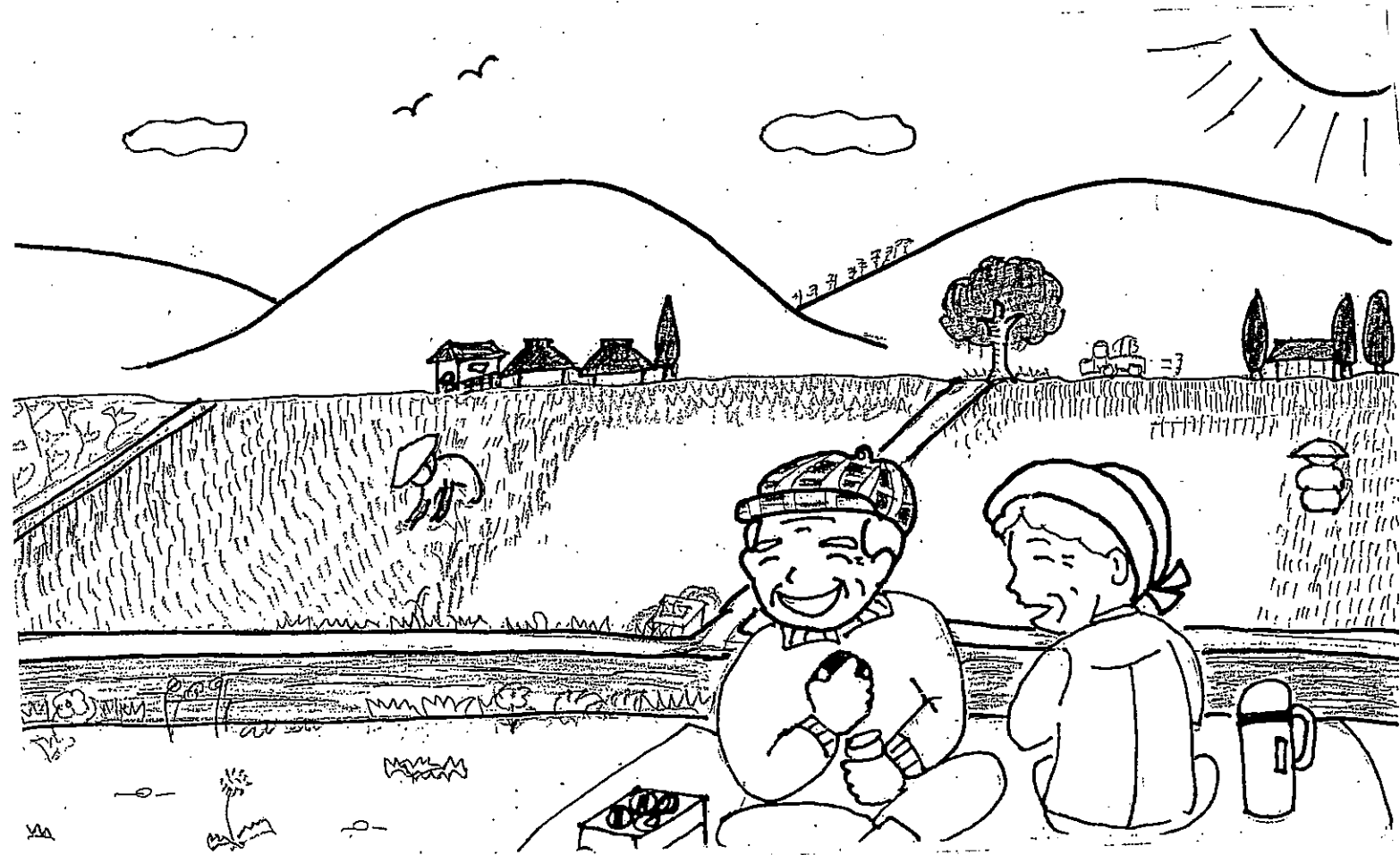
第 2 2 号

発行：那須塩原市
介護サービス相談機関

「介護相談室」

発行日：2006年

6月26日



那須疏水の話

初夏の水田は溢れるばかりの水が苗を育み水路にはとうとうと水が流れています。これらの水はどこから来るのでしょうか、「温故知新」の思いで疏水を訪ねてみました。

昔、那須野が原一体は水に乏しい地域でしたが、明治十八年水を求めて疏水の開発事業が行われ、約六十キロの疏水を完成させました。

その後も長年の水利開発により「安積疏水」「びわこ疏水」と並ぶ日本三大疏水の一つと言われる那須疏水が完成しました。

深山ダムを水源とし那珂川の西岩崎から取水して水路に放流される水も、今ではコンピューターが集中管理し、潤すだけではなく災害にも貢献しています。

今年新たに国の重要文化財にも認定されました。

この季節先人の苦勞に思いを馳せながら、近くの田畑を眺めてみてはいかがでしょうかでしょう。



あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

第 23 号

発行：那須塩原市介護
サービス相談機関
「介護相談室」
発行日：2006年
9月25日



盆歌

利用者の方から貴重な盆歌集を 教えて頂きま
した。地元の盆歌には百八十八もの歌詞があり、
その中からいくつかをご紹介します。

広い那須野はわし等の舞台深山りんどうに沼原

板室街道 車で行けば 迫る白笹 沼原

八幡良いとこ一望千里 関の白河 目の下に

おらが自慢の深山の水は日本国中の灯を燈す

黒磯名所は晩翠橋よ 秋は紅葉の唐錦

北に那須山 南に八溝 眺め豊かな黒磯市

鮎は瀬に住む鳥りや木に宿る人は情の内に住む

先人が情緒豊かな盆歌として今に歌い継ぎ、改め
て我が住む街は豊かな水と大地、観光名所に恵ま
れた良い所と再認識しました。



あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

発行；那須塩原市介護
サービス相談機関
「介護相談室」
発行日；2006年
12月25日



ちよつと昔の話

日頃、利用者の方々とお話をしていると昔懐かしい話を沢山伺います。今回はその中からこんな事があったのだと思えるお話をご紹介します。

モグラ払い (ぼうじば)

◆ 十五夜の夜、子供達はわらを束ねた物に縄を巻き、それを地面に打ちつけながら隣近所を歩きました。モグラ払いで子供達は各家からお菓子のご褒美を頂きそれが楽しみだった。

回覧板

◆ 昔は回覧の内容によって回し方が有ったものだ。家を人間になぞらえて着物の懐を考え不幸や良くないお知らせは左回り、良い知らせや普通の知らせは右回りとしていた。良い知らせは懐に入り、悪い知らせは通り過ぎると縁起をかついだ考えだった。

那珂川の渡し舟

◆ 私の子供の頃は那珂川にも渡し舟があつて学校へ行くのも乗って行ったものだ。今の鍋掛地区の照明橋の所であり船頭の気分によってすぐ出る時出ない時があり学校に遅れたりもした。昭和十三年の大洪水で橋が流され三年間も続いた。



あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。



春を待つ暮らしの行事

一月二十日 エビス講

早朝から一升枡の上に恵比寿様を祀り、枡の中に財布を入れて恵比寿様がお金を稼いでくれるように祈願しました。膳には赤飯、魚、お酒を供えました。

二月三日 節分

いわしの頭をヒイラギの小枝にさしツバをつけて焼き、家の戸口や井戸、納屋等にさして厄神払いをしました。豆まきは今でも行われていますが、「節分にまいた豆を初雷様の時に食べる」と雷様に当らない」といわれ夏まで残しておきました。

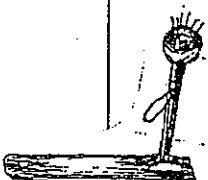
二月八日 針供養

一年間使った針や折れた針等を豆腐にさして氏神様に納めました。鍋掛に住んでいるA子さん、「戦時中はお豆腐も貴重品だったので大きな針刺しを作り瀬縫（那須町）のお不動様を持って行った」と言います。女性は農閑期に裁縫を習い上達を祈りました。

二月 初午

初午についてこんな言い伝えが残っています。初午が新暦の二月一日に当たるとその年は火事が多い。（東那須野）

初午の午前中は、お茶はたてない。お茶を飲むと火元にたつ（塩野崎）。



あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

第 26 号

発行；那須塩原市介護
サービス相談機関
「介護相談室」
発行日；2007年
6月25日



デイサービスは楽しい！

最近、デイを利用していらっしゃる方達からその楽しさを良く耳にします。

職員は親切、入浴もできて介助もしてもらう。その上食事は美味しく友人もできた、と今では無くてはならない所になり生き甲斐になっているようです。

介護サービスが始まって七年目、デイサービスの目的や良さが浸透してきたように思います。

ある女性利用者は、デイサービスは三日楽しめると言います。

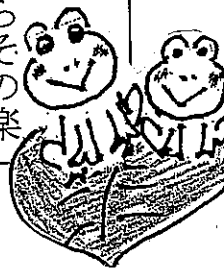
前日はその準備をします。当日は一日を楽しく過して、翌日は持ち物の片付け等に時間を使う。

生活にメリハリがあり、また社会とのつながりが持てる事が嬉しいと話します。

目的や楽しみを持つことが、張りのある生活に繋がるのでしょうか。

デイサービスの食事はもとより、季節の催し、誕生会やドライブ、そして年一回の旅行など、その楽しみ方もさまざまです。

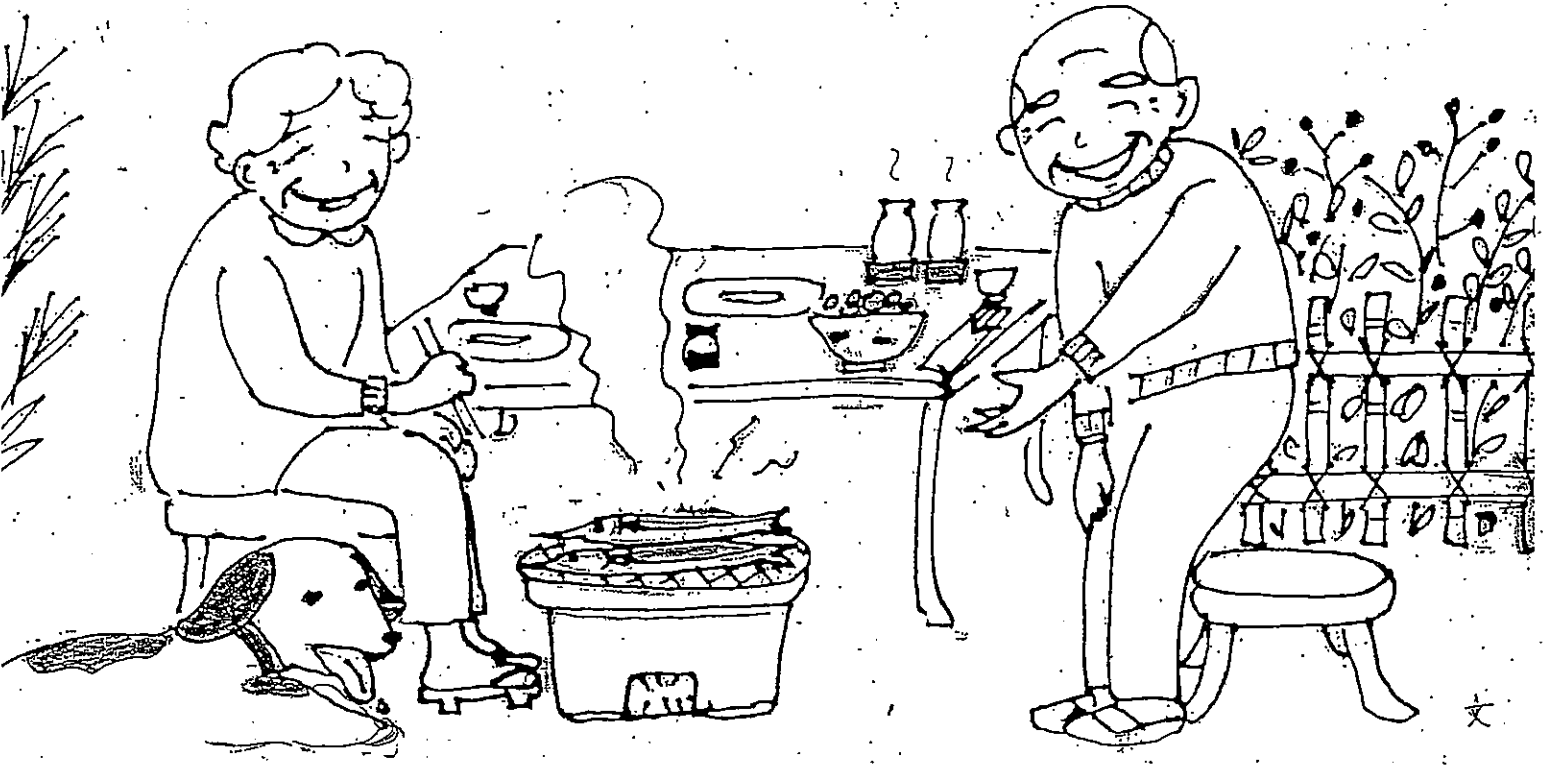
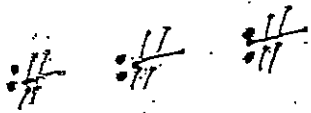
今や老後ではなく、現役の楽しみと言えるでしょう。



あやとり

発行：那須塩原市介護
サービス相談機関
「介護相談室」
発行日：2007年
9月25日

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。



収穫を祝う秋の行事

旧暦八月十五日 お月見

縁側にちやぶ台を出し収穫した里芋、さつまい、大根などの野菜と、だんご十五個を三方にのせて供えました。それと共にすすきや萩やくだものも供えました。栗はなぜかイガが付いた枝栗だったようです。

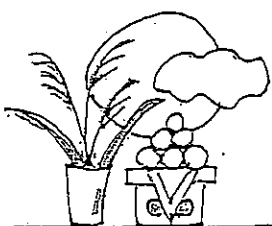
所によつてはすすきの本数が決まっていたり、「だんご」が「たんさんまんじゅう」になったりすることもあったようです。

また、十五夜にあげたものはきれいに取られた方が良くという言い伝えがあり、子供達は暗くなるのを待って各家を廻り取って歩きました。家の人は見ても見ぬふりをしたものです。

旧暦十月十日 こと

収穫を感謝し新米で餅をつき神様や仏様に供えました。餅は丸めたり重ね餅にしました。お嫁さんはその餅を持って実家へ帰ったそうです。

また、地方によっては、その年農作業でお世話になった人へ感謝の気持ちを込めて配りました。餅の他にお重に入った赤飯もあったようです。



あやとり

発行：那須塩原市介護
サービス相談機関
「介護相談室」
発行日：2007年
12月25日

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。



“利用者の方にお聞きしました”

あんな話こんな話

下厚崎の井戸の話

また水道も無い時。この地域は水が無い所。井戸を掘ってもなかなか水が出ない。一か所水の湧き出る所があり、そこまでは螺旋に道を造り、天秤棒をかついでそこまで降りて行く。上から「誰かいるか」と声を掛けないとすれ違えない。水は本当に大切だった。



黒磯の大火

昭和六年、黒磯駅前で大火があり、水不足と折からの風のため、一三五戸と被災者は七四〇人に及びました。この大火によって上水道が引かれた。当時は過ぎたるものと世評にのぼり、近代化の先駆けとなったそうです。

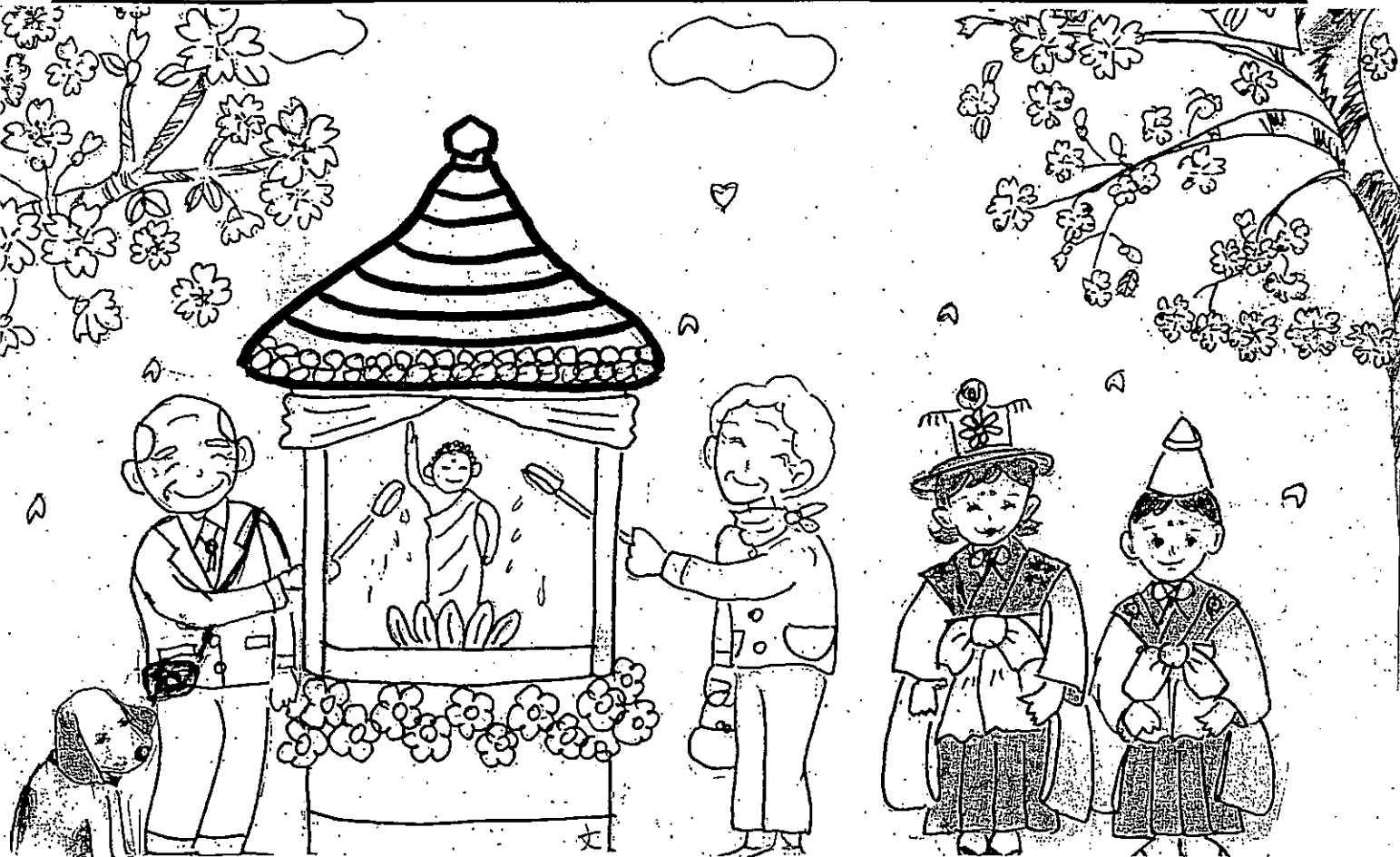
那須街道の思い出

大正十五年に那須に御用邸が作られ、その後昭和天皇は度々訪れていました。黒磯駅で下車され、馬車や後には車で御用邸に向かわれました。那須街道は砂利道で揺れるため、当時の吉田茂首相が訪れた時、一声で舗装されたそうです。那須街道を守ってきた一人のAさんは舗装は下りで滑るので苦労をしたと当時を振り返ります。いろいろ歴史がありますね。

あやとり

発行：那須塩原市介護
サービス相談機関
「介護相談室」
発行日：2008年
3月25日

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。



あんな時代 こんな時代

埼玉飛行場

先頃のニュースで、「上厚崎の道路工事中に不発弾が見つかった」と報じていました。終戦まで埼玉には飛行場がありました。今の埼玉小学校のあたりには本部や講堂や格納庫があり、飛行機は多い時で四十機ぐらいあったそうです。終戦間近にはここから特攻隊も飛び立ちました。また、米軍の攻撃を受け、農作業をしていた十七名が亡くなっています。今ではこの滑走路も立派な道路となり、車を走らせても過去を思い出せるものはありませんが、戦後の爪あとはまだまだ残っているのですね。

時折戦後の過酷な開拓の話を聞きます。先人の苦勞を思うと、改めて平和の尊さを感じます。

鍋掛宿と越堀宿

奥州街道の宿場町であった鍋掛宿と越堀宿は那珂川をはさんで二宿で一つの機能を持った宿場町でした。両方の宿を合わせると三十五軒くらいあったそうです。その名残でしようか、子供時代を越堀で過したという男性は各家を屋号で呼んでいたと懐かしそうに話してくれました。

両宿にまたがる那珂川は平常は「立ち渡り」と呼んで歩いて渡り、水かさが増した時だけ船を出したようです。

あやとり

あやとりは、介護サービス利用者と介護相談室を結ぶ季刊紙です。

第 30 号

発行：那須塩原市介護
サービス相談機関
「介護相談室」
発行日：2008年
6月25日



天下の名橋晩翠橋

晩翠橋は明治十七年に国道四号線が新しく西那須野・黒磯ルートに変更された時に那珂川に架けられました。

当時は木の橋で、「冬になっても木々の緑が変わらない」という意味で晩翠橋と名づけられ、那珂川の崖の松の緑からとったとも言われています。明治以来何度も架け替えられました。

現在の晩翠橋は昭和七年国道の一部付け替えによって十メートル下流に架けられたものです。

アーチ型の美しい橋は、周囲の風景と調和して天下の名橋と言われています。

明治後期には兵士も大演習の一日、晩翠橋を渡って愛宕山に向かい、愛宕山には明治天皇がおいでになられ、大演習を統監されました。

昭和天皇は那須御用邸においでの際、黒磯駅を利用して晩翠橋を渡られました。

戦前には、月一回の那須町瀬縫のお不動さんに行く人で賑わい、橋の両側にはいなり寿司や炭酸饅頭を商う家があり、子供たちはお小遣いで食べ物を買うのが、何よりの楽しみでした。低学年の愛宕山への遠足は下駄や草履ばきで、晩翠橋をぞろぞろと歩いて渡った思い出の橋です。

七十五歳になった晩翠橋はきれいにライトアップされ、今も元気に私たちの生活を見守ってくれています。

